

創造性を育む～年少児の探究する姿から～

2019年度
武蔵野東第一・第二幼稚園
年少研究部

年少児における創造性(昨年度の研究から)

- ★創造性を育むための原動力となる経験や体験を積み重ねていく時期
- ★いろいろな素材や道具に感性を働かせて、遊びながら特徴や不思議さ、面白さを知っていく

今年度の研究のわらい

昨年度の研究報告をもとに、どのクラスでも親しみのある砂場やままごとでの遊びに焦点を当て、それぞれの遊びの中でどのように子供たちの創造性が育まれていくのかを考えていく。

<研究方法>

①月ごとに“砂場”や“ままごと”の遊びの中で子供たちが探求している姿、夢中になっている姿の写真を持ち寄る。

②持ち寄った写真の場面から、それぞれの子供たちの学びや気づきを読み取り、付箋に記入していく。

③子供たちの育ちを捉える。さらに、その時期に必要な援助や環境を考えていく。

<実践>

4～5月頃：安定した場、親しみのある素材や玩具を使って遊び始める

砂場



くどの子にも入り、遊びだしやすい場



それぞれの子が砂とたっぷり触れ合う



<保育室と隣接したおこもり感のある場>



既成の玩具を使って遊び始める

ままごと

6～7月頃：廃品素材や水など、新たな素材を取り入れることで、遊びが広がり始める



素材と素材(砂と落ち葉)を組み合わせ、見立てる



素材と素材(砂と水)が混ざり合う感触を楽しむ



お店屋さんになりきって作る



毛糸をラーメンに…など素材を見立てて遊ぶ



絵本をメニューとして遊びに取り入れる

9～10月頃：遊びの場を自分たちで作り始める



互いのイメージに合わせて道具(椅子やお皿)を運びその場所で遊ぶ



必要なものを考えて場を作る



段ボールや大型積み木が壁や机、椅子に見立てられることに気付く



園庭でもままごと遊びができるように室内で使っていたシート等で場を作る

11～12月頃：友達とやりたいことを共有し、遊びの中に役割やストーリー性が出てくる



川を作りたいなどのやりたいことを友達に伝える



見立て遊びが発展し、経験とごっこ遊びが繋がる



店員さんとお客さんなどの役割が遊びの中で出てくる



「いらっしゃいませ」「はいどうぞ」などと友達同士のやりとりを楽しみ始める



〇〇しよう!と、自分たちなりに考えたストーリーで遊ぶ

<まとめ>

4月～10月頃

様々な素材や道具にたっぷり触れ、その素材の特性や不思議さ、面白さを知っていく時期

11月頃～現在

自分なり、年少児なりに創造力を働かせながら遊びが広がっていく

この経験を土台とし、年中・年長ではさらに様々な環境(ひと・もの・こと)と関わりながら、探究心や創造性を育てていく